

女性の保険ポイント 生活の変化に対応する医療保険と、年金保険で老後資金作りも

- 1 保障と貯蓄の機能をあわせ持つ終身保険を、葬儀費用や老後資金作りとして活用する
- 2 病気の備えには、リスクやライフプランに合わせて特約を付加できる割安な医療保険を
- 3 リタイア年齢に合わせて年金受け取り時期を選べる個人年金保険で、計画的な老後資金作り

保 険 料	終身保険(60歳払)	3,768円/月
	医療保険(60歳払)	4,842円/月
	がん保険(60歳払)	2,416円/月
	個人年金保険(60歳払)	10,000円/月
	合計	21,026円/月

〈25歳女性の契約例〉

変額終身保険
死亡保険金:300万円
保険期間:終身

終身医療保険
入院給付金:1万円
特約:手術、少額手術、通院、先進医療
保険期間:終身

終身がん保険
がん診断給付金:100万円
初回診断給付金:200万円
保険期間:終身

個人年金保険
年金:年額518,130円

25歳 60歳 70歳 終身



A ソニー生命「バリアブルライフ」

インフレに強く、運用実績によって保険金や解約返戻金が増減する変額タイプの終身保険。運用実績にかかわらず、基本保険金額は保証されている。保険料払込免除特約を付ければ、三大疾病や所定の介護状態になった時に保険料の払い込みは不要になる。

B メットライフアリコ「新終身医療保険」

終身保障とともに充実した特約が特長の医療保険。リスクやライフプランに応じて途中から特約を付けることができるため、自由度の高い保険設計が可能となっている。専門医紹介やセカンドオピニオンなどのサービスも付いているので安心。

C AIG 富士生命「がんベスト・ゴールド」

がんと診断されると給付金を一括で受け取ることができるため、まとまった治療費を確保できる。がんと初めて診断確定後は、保険料の払い込みが免除される。セカンドオピニオン紹介やがん検診などの健康サービスも無料付帯される。

D 東京海上日動あんしん生命「個人年金保険」

契約時に年金額が確定するため、計画的な老後資金作りが可能。年金開始年齢や年金受け取り期間は自由に設定できる。告知や医師の診査は不要なので健康不安の人でも加入しやすく、個人年金保険料控除が利用できれば節税効果も期待できる。

終身保険と医療保険で 最小限の保障を準備

独身の男女は、結婚や住宅購入、あるいは老後の生活資金などを貯めることが優先される。そのため、高額な死亡保障の必要性は低い。死亡保障を持つなら、葬儀費用などに利用できるよう一生の保障を得られる終身保険をベースに、解約返戻金を利用した老後資金作りなど、用途の選べる保険を準備したい。

また、貯蓄額が少なければ、病気やけがへの備えも考えよう。今後のライフプランの変化を考慮した、医療保険選びが必要だ。

おすすめ保険は男女共通で、一生の死亡保障と医療保険に加え、老後資金作りのための年金保険。

ソニー生命「バリアブルライフ」は、終身の保障にプラスして、解約返戻金を利用した老後資金作りとしても利用できる。一般的な終身保険とは違い、保険料を株式や債券などの特別勘定で運用するため、運用実績によって保険金が増減するのが特徴。しかし、運用が良くない場合でも、基本保険金額は最低保証されている。

医療保障は、メットライフアリ



Advice by
株式会社ホロスプランニング 東京オフィス
安達将範

MASANORI ADACHI
ファイナンシャルプランナー・リスクマネージャー・BCP 協会上級インストラクター・相続診断士。銀行および保険会社に16年勤務し2005年から現職。個人のライフプランニングから相続のご相談、法人の資金調達から事業承継のご相談等、個人法人間わなないコンサルティングが強み。お客様に安心していただくことがモットー。

「新終身医療保険」がおすすめです。通院や少額の手術など、加入する人がリスクの種類に応じて、希望する特約を中途付加できるなど、設計の自由度が高い。

AIG 富士生命「がんベスト・ゴールド」は、一時金重視で入通院、在宅など、治療法に応じて費用の使い方の自由度が高まるため備えておきたいところ。

東京海上日動あんしん生命「個人年金保険」は、契約した時点で将来受け取る年金額が確定するため、若いうちから計画的に老後資金を準備するには最適だ。また、個人年金保険料控除が利用できれば、節税効果も期待できる。